

港区の生きものと外来種

港区には、様々なタイプの緑地や水辺があり、2,000種類以上の生きものがいます。その中には、「外来種」と呼ばれる生きものもいます。

「外来種」とは、もともと地域にいなかったにもかかわらず、人間の活動によって、他の地域から運ばれてきた生きもののことです。地域の生態系のバランスを崩すことがあるので注意が必要です。



肉食のブルーギル
(特定外来生物)



池に多いアメリカザリガニ
(要注意外来生物)



池に多いアカミミガメ
(要注意外来生物)



在来種と交雑する
セイヨウタンポポ
(要注意外来生物)

今、地球規模で、生物多様性は失われつつあります。
生物多様性みなとプランの目指す将来像である

**「まちの活気と生きものが共存して、生物多様性の恵みに感謝し、
笑顔があふれているまち・みなと」**
を実現するため、ともに行動しましょう!

生物多様性みなとプランの全文は、港区のホームページでご覧になれます。
<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

身近な自然、地球上の自然資源を 未来に引き継ごう

—生物多様性みなとプラン—



生物多様性とは、地球上のあらゆる生きものが、相互に関わりあいながら生きていることをいいます。
私たち人類も生物多様性の一員で、
他のたくさんの生きものとのつながり、食べ物や水など、地球上の様々な自然や生きものから
得られる恵みを受けて生きています。



刊行物発行番号 26234-5611

編集・発行 港区 環境リサイクル支援部 環境課 緑化推進担当

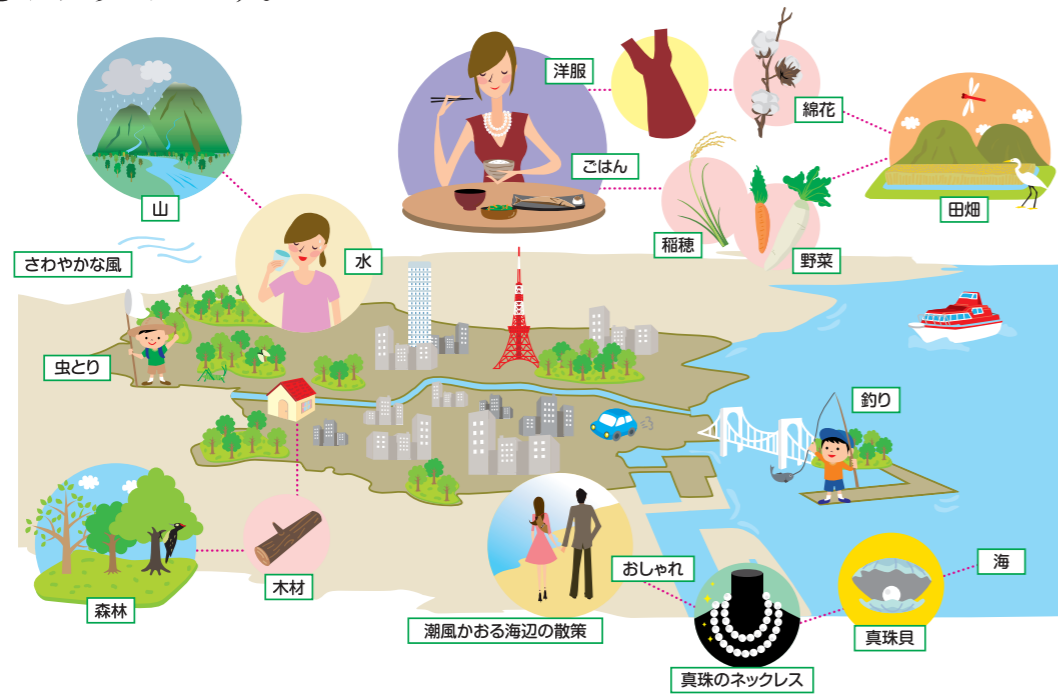
〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号 電話03-3578-2111(代表)

発行日 平成27年(2015年)3月発行

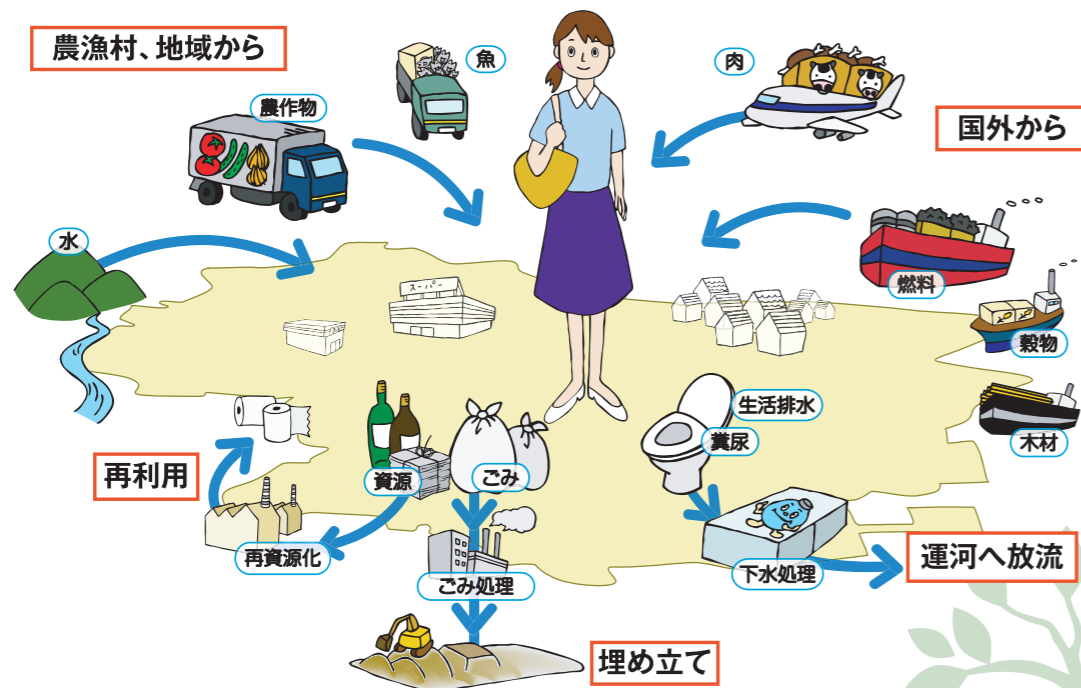


私たちの暮らしを支える「自然や生きものたち」

私たちは、毎日あたたかな食事をし、お風呂に入り、車で移動する、といった快適な暮らしをしています。そうした暮らしができるのは、地球上の様々な自然や生きものたちが作り出す生物多様性の恵みがあるからです。



生物多様性の恵みである食べ物、木材など様々な物資のほとんどは、国内の農漁村地域や海外から港区に供給されています。



しかし、私たちの暮らしを支えてきた生物多様性は、人間の活動や気候変動によって、今、世界中で急速に失われつつあります。

未来の人々が、生物多様性の恵みを受けて豊かな暮らしができるようにするためには、身近な自然はもちろん、地球上のすべての自然資源を未来に引き継ぐ必要があります。

私たちができること

私たちの暮らしを支えてくれる生物多様性、すなわち自然や生きもの達を未来に引き継ぐため、今できることから始めてみましょう。

体験しよう

自然や生きものについて、楽しく体験しながら学べる場があります。身近な公園や水辺などで生きものについて調べ、学ぶ「自然観察会」、あきる野市で季節の自然や生きものを観察し、学ぶ「みなの区民の森づくり」などがあります。



自然観察会



みなの区民の森づくり

学ぼう

生物多様性を学ぶことができる施設があります。身近なエコ活動から地球規模の環境まで幅広く紹介し、学ぶことできる「港区立エコプラザ」、武蔵野の面影を伝える約20haの広大な自然の中で、自然や生きものについて学ぶことできる「国立科学博物館附属自然教育園」があります。



エコプラザ



自然教育園

守ろう

貴重な自然や生きものが守り育てられています。23区内では希少なカントウタンポポを守る「亀塚公園ビオトープ」、芝浦西運河で、カルガモのために人工巣を設置している「カルガモプロジェクト」などがあります。



カルガモプロジェクト



亀塚公園ビオトープ

エコに暮らそう

限られた資源を大切に使うことは、原産地の自然をまもることにつながります。

「ごみを減らす (Reduce, リデュース)」、「繰り返し使う (Reuse, リユース)」、「資源として再利用する (Recycle, リサイクル)」の3Rを進めましょう。



みんなと3R活動